

追悼－巨匠ピエール・ブーレーズを偲んで

プログラム

去る1月5日、フランスの世界的な名指揮者で作曲家、ピエール・ブーレーズが亡くなりました。享年90。今日はブーレーズが残したライブ音源の中から注目の演奏をお聴きいただき、この巨匠を偲びたいと思います。ブーレーズは1925年3月26日、南フランスのモンブリソンで生まれました。パリ音楽院でメシアンに学び、1954年から前衛音楽運動「ドメヌ・ミュージカル」を設立、数多くの現代音楽を紹介する一方、自らも積極的に作品を発表して行き、現代音楽の担手としてその名を知られるようになりました。1961年に指揮者としてベルリン・フィルにデビューした頃から指揮活動が活発化し、1966年にはパイロイト音楽祭に初登場、1976年から1980年まで「ニーベルングの指環」を指揮、シェローの新演出と共に大きな話題を呼び、映像も残されています。1967年クレーヴランド管弦楽団の首席客演指揮者、1971年～1977年ニューヨーク・フィルハーモニックの音楽監督、この間1971年～1975年にはBBC交響楽団の首席指揮者を兼任。その後はベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロンドン響、シカゴ響、パリ管等、世界の名門オーケストラと共演を重ねて行きました。ブーレーズの指揮は、どこまでも明晰で、作品の細部にこだわった精緻な響きは、時に醒めていて冷たく感じることもありますが、それが計算されたブーレーズ流の表現力だと分かる新鮮な響きに納得させられています。特に近代、現代作品にそれが顕著ですが、モーツァルトやベートーヴェン、交響曲全集を完成させたマーラーもブーレーズならではの個性的な演奏が魅力です。今日は得意とするラヴェル、バルトーク、ストラヴィンスキーといった近代の名曲の他、自作の「ノタシオン」、モーツァルト、マーラーまで、多彩な作品でお楽しみください。
(中川)

ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756～1791):

ピアノ協奏曲第20番ニ短調K.466～第1楽章、第2楽章から、第3楽章から

ベラ・バルトーク (1881～1945):

管弦楽のための協奏曲～第4楽章(中断された間奏曲)、第5楽章(フィナーレ)

マリア・ジョアン・ピリス(P)

ピエール・ブーレーズ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(2003.5.1 リスボン、ジェロニモス修道院でのLive)

モーリス・ラヴェル (1875～1937):

ラ・ヴァルス

ピエール・ブーレーズ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(1993.3.24 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

*** 休憩 ***

ピエール・ブーレーズ (1925～2016):

ノタシオン～3、2

ピエール・ブーレーズ指揮マーラー・ユーグント管弦楽団

(1997.8.28 サルツブルク祝祭大劇場でのLive)

イゴール・ストラヴィンスキー (1882～1971):

組曲“フルチネルラ”～抜粋

ピエール・ブーレーズ指揮ロンドン交響楽団

(1995.5.22 サントリーホールでのLive)



クスタフ・マーラー (1860～1911):

交響曲第5番嬰ハ短調～第4楽章、第5楽章

ピエール・ブーレーズ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1996.3.24 ウィーン・ミュージクフェラインサールでのLive)